

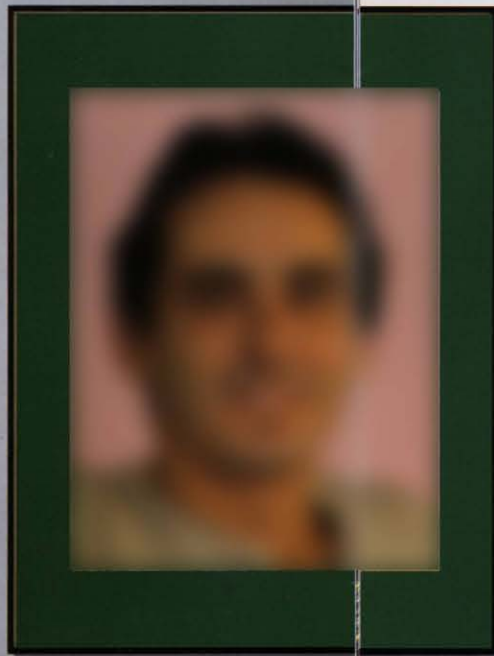


John

スコフィールドさん、日本のコルネット吹きの腕前は
いかがですか？

1951年、オハイオ州アイトンの生まれ。ジャズブレイヤーとしてはまだ若い。主にマンハタンに点在するミュージックスポットや、スタジオがテリトリーである。仕事仲間の賑わいは、そうそうたる面々。涼くも熱る人たちである。チエット・ベイカー、ジュリー・マリガン、チャーリー・ミンガス、ビリー・コブハム、テルマサ・ヒノ……。

彼は何でも出来る。ジャズをベースに、ロックからクラシックまで、幅広い音楽家だ。現代アートシーンの中核として機能しつつけるマンハタンの宿命的な先進性の中で頭角を表わしてきた男たちに共通する、したたかな生命力を、彼から感じることは難しい。常に繰返し、はにかんだように照れる。律儀な人だ。最新作『シノータ』のジャケットにこう記されていた。GUITARS COURTESY OF IBANEZ. マンハタンというアメリカ全土から見れば、米粒ほどの島に凝縮されている文化容量は測り知れない。その中で光を差し続けるジョン。彼は私たちの誇りです。



John

トロペイさん、日本のコルネット吹きに
負けず劣らずハンサムですね。

N.Yで242・4694をコールするとセヴンズ・アベニュー・サウスにつながる。しばらく前、ジョンはここで派手にやってくれた。ジョン・トロペイ、1946年生まれ。プエルトリコ出身。パータリーで学んだ後、直ちにスタジオワークを開始した。ハンサムなだけで食っていけないのはどこの国でも同じ。腕かラッキーか、それとも両方なのか。とにかく72年にはソロイストとして活躍していたという。フュージョンギター・フリークには、トロペイギターと呼ばれ、ポップでハッピーなギターが魅力。彼の名を世界に知らしめたのは、かのデオダート・オーケストラのツツアラトストラはかく語りきでの光り輝くギターソロである。今や名実共に、ニューヨーク・フュージョンシーンのフューチャー・ド・アーティストである。彼特有の強いピッキングから弾け跳ぶグッドティストのサウンドは、イバニーズから発射される。日本のコマージュアルで、ニューヨーク好きになるか、嫌いになるかどちらかしかないと言われたマンハタン。ジョンはそのめぐるめく満の中を我がが着顔に泳いでいる。

AS 独得のスタイリングは、プレイビリティを究極まで追求した結果の産物である。アメリカでのポピュラリティは自慢できる。強度、つまり物理的な意味でのタフネスとサウンドクリエーションの可能性をもっていない限り、アメリカでは見向きされない。この2つのファクターを見事にマッチングさせ、コンプリートされたのがASシリーズだと思っていたら、差しつかえない。

AM205

写真でお解りいただける、スモークサイズ
のセミアコースティックモデル。
より小さな共振器である事実を克服する手
では、マホガニー材による振動係数の強化で
クリア、AS同様ジラルタルIIブリッジとセ
ンターブロックのコンビネーションで包み込
むようなメロディラインをソリッドギターに
近いフィーリングで生み出します。

AS80

メイプルとアッシュのセンターブロック
が、ブリッジ、テイルピースをがっちり
ホールド。メイプルネックとマホガニー
フィンガーボードもここへジョイントされ、
ナットからの弦振動に伝みを与えること
なくスーパー58ピックアップへ伝える。

AS200

クリアーでナイーブなトーン。通りのよいリ
ードプレイから、バランスのとれたバックキ
ングまで、プレイの内容にこだわらず使用可能。
フロントピックアップにトライサウンドスイ
ッチを加え、シングルコイルサウンドも可能。
アコースティックな空気のヴァイブレーシ
ョンと、ウッドの振動、そして完成されたエレ
クトリックサーキット。



AM205

AS80

AS200